

## 10年間で最高の経済成長を記録したベトナム

中川 良一

北朝鮮キム委員長・米国トランプ大統領会談での準備作業等によって、徐々に渋滞が始まってきました。北朝鮮大使館は外壁のペイント工事、主要道路では両国会談を記念する装飾、



またMr.KimとMr.Trumpヘアのカットを無料でサービスする床屋も現れ、市民の米朝会談に対する関心も高まってきています。  
(※2月下旬)

ベトナムが東南アジアで最も注目される国家と言われ始めてから早10年が経過しましたが、ベトナム統計総局により、2018年マクロ経済状況について発表されました。2018年の主要経済指標は下記のとおりです。

この指標のように順調な経済成長を見せる中、韓国の各分野での突出ぶりが目立っています。韓国と日本の投資件数での過去累計(新規および増資案件)は、韓国7,459件に対し日本は3,996件と1.9倍となります。そして2018年1年間の韓国と日本の新規投資案件数では、韓国1,043件に対し日本は420件と2.5倍の差があり、年々開きが広がっています。

ベトナムでの在留韓国人推定12万人に対し在留邦人約17,000人=約7倍差

ベトナム入国者数は韓国348万人に対し日本82万人=4倍差

ベトナムの輸入額は韓国から479億米ドル、日本193億米ドル=2.5倍差

韓国は国家主導でベトナムとの協力そして民間企業のベトナム進出促進を行っており、私が入関するハノイ近郊自治体においても、韓国政府より人員が派遣され、韓国企業進出促進を行うと同時に韓国地方都市との交流業務も促進させています。

今回の北朝鮮キム委員長訪問においても、北部バクニン省(サムスン本拠地)およびハイフォン市(LG本拠地)への視察が組み込まれており、韓国政府の働きかけが見受けられます。今後、日本企業がベトナムでのプレゼンスを保つためにも、日本政府、日本の地方自治体、そして民間も含めた多方面での交流がさらに促進されることを期待しています。

2018年のGDP伸び率は7.08%で、2008年以来最高の伸び率。産業別の伸び率は農林水産業3.76%、工業・建設業8.85%、サービス業7.03%となりました。2018年のベトナム経済規模は5,535.3兆ドン(約26兆円)で、一人当たりのGDPは5,850万ドン(約28万円)で2017年に比べて約2万2000円増加。

## ①主な経済指標

■2017年に比べて生産量が著しく増加した工業品生産量(前年比増減率)

ガソリン943万トン(51.2%増)、鋼材1,772万トン(43.8%増)、LPG99万トン(29.8%増)、テレビ1,320万台(24%増)、アルミン131万トン(23.3%増)、合成繊維の織布10.8億m<sup>2</sup>(18.9%増)、水産養殖用飼料611万トン(17.3%増)

■主な農産物の生産状況(前年比増減率)

米4,398万トン(2.9%増)、トウモロコシ491万トン(4%減)、サツマイモ137万トン(1%増)、キャッサバ芋994万トン(3.2%減)

■水産の水揚げ高775万トン(6.1%増加。内訳、魚類560万トン、エビ類97万トン、その他118万トン)

■貿易：輸出総額：2,447.2億米ドル。前年比13.8%増加(前年比金額増減率)

【主な輸出品及び輸出額】：電話器及び部品500億米ドル(10.5%増)、繊維・縫製品304億米ドル(16.6%増)、電子品・計算機・部品294億米ドル(13.4%増)、機械設備・部品165億米ドル(28%増)、靴類163億米ドル(11%増)、水産品88億米ドル(6.3%増)、野菜38億米ドル(9.2%増)、コーヒー35億米ドル(1.2%増)、カシュウナツ34億米ドル(3.9%減)、米31億米ドル(16%増)、原油23億米ドル(21.2%減)

【主な輸出先】：米国475億米ドル(14.2%増)、EU425億米ドル(11%増)、中国419億米ドル(18.5%増)、アセアン247億米ドル(13.7%増)、日本190億米ドル(12.9%増)、韓国183億米ドル(23.2%増)

■貿易：輸入総額：2,375.1億米ドル。前年比11.5%増加(以下、括弧内：前年比金額増減率)

【主な輸入品】：電子品・計算機・部品425億米ドル(12.5%増)、機械設備・部品337億米ドル(0.5%減)、電話器及び部品160億米ドル(2.6%減)、生地129億米ドル(13.5%増)、鋼材99億米ドル(9%増)、樹脂91億米ドル(20%増)、ガソリン76億米ドル(7.8%増)、金属類73億米ドル(24.9%増)、プラスチック製品59億米ドル(8.1%増)、縫製・製靴付属品57億米ドル(5.7%増)、化学品52億米ドル(25.2%増)

【主な輸入先】：中国658億米ドル(12.3%増)、韓国479億米ドル(2%増)、アセアン320億米ドル(13%増)、日本193億米ドル(13.4%増)、EU138億米ドル(13.1%増)、米国128億米ドル(36.7%増)

## ②その他

■外国直接投資(2018年の始めから同年12月20日まで)：新規投資件数3,046件、登録投資額179億7620万米ドル。2017年に比投資件数が17.6%増加しましたが、投資額は15.5%減少しました。

【外国直接投資の主な業種(新規投資額ベース)】：製造業50.5%、不動産業29%、その他20.5%

投資国別では日本が首位であり、①日本65億9210万米ドル ②韓国36億5760万米ドル ③シンガポール14億2360万米ドル ④中国12億1710万米ドル ⑤香港11億2890万米ドル ⑥タイ8億9860万米ドル ⑦仏5億2360万米ドル

【進出先/54都市・省 上位の進出地方(外国新規投資額ベース)】：ハノイ28%、バリア・フンタウ10%、ピンズオン省6.8%、ドンナイ5.5%、ホーチミン市4.4%、ハイフォン4%、タイニン2.5%、バクニン2.2%、ニントアン2.2%

■外国人の入国者数は1,549.8万人で最高。空路、陸路及び海路別で入国した外国人の数はそれぞれ1,248.5万人(14.4%増)、279.8万人(59.6%増)及び21.5万(16.8%減)となっています。(前年比増減率)

アジア各国からの訪問者が最も多く約78%を占める。国別では中国496万人(23.9%増)、韓国348万人(44.3%増)、日本82万人(3.6%増)、台湾71万人(15.9%増)、マレーシア54万人(12.4%増)、タイ35万人(15.8%増)、シンガポール28万人(3.1%増)

■2018年の平均人口は約9,466.6万人(推定)で、2017年に比べて98万8400人増加。都市部人口3,383万人(総人口の35.7%)で、農村人口6,083.6万人(総人口の64.3%)。15歳以上の労働人口5,540万人(男性52%、女性48%)